

松崎市長新春インタビュー「小浜、笑顔あふれるまちに」

日本遺産認定、ミラノ国際博覧会への出展、北陸新幹線金沢開業。地域を取り巻く状況が大きく変化した平成27年。そして迎える新年、飛躍の一步を踏み出すための小浜のビジョンを市長が語る――

これからの市の取り組みについて

市長 今年も、昨年に引き続き大きな

転換期であると考えています。「小浜、笑顔あふれるまちに」をスローガンに、

- ① 安全／安心な暮らし
- ② 地域／人づくり
- ③ 魅力ある産業／観光
- ④ 賑わいの創出
- ⑤ 効率重視の行財政改革

の5つの公約に沿って、各種の施策に取り組んでいきます。

安全／安心な暮らしについて

市長 まず防災について、来る災害に対する備えを万全なものとすべく、市民の皆さんの安全を第一に考え、迅速かつ的確な対応ができるよう、更なる検証を実施し、日々研さんに努めています。「自助」「共助」の視点から、地域防災力の強化にも取り組んでいきます。福祉の面では、昨年4月からの生活困窮者自立支援法の施行に伴い、生活保護に至る前の段階から早期に自立支



市民や関係機関が参加した福井県総合防災訓練（8月30日・川崎三丁目）

援策の強化を図るため、社会福祉課内に設置した「自立促進支援センター」の専門職を中心に、関係機関と連携しながら、一人一人に合った相談や支援を実施していきたくと考えています。

地域／人づくりについて
市長 「小浜市まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、「人口ビジョン」ならびにその実現に向けた「地方版総合戦略」を策定しました。「産業の振興、安定した雇用の創出による働きやすいまち」「定住人口の維持、交流人口の拡大による出会いのあるまち」「若い世代の希望を実現し、時代を担う人を育むまち」「誇りと愛着を持ち、安心して住み続けられるまち」の4つを基本方針とした施策に全庁体制で取り組み、市内外の多くの人が小浜に住みたいと思ってもらえるまちの実現を目指します。

魅力ある産業／観光について
市長 雇用の場の確保は人口減少対策を考えるうえで、重要な施策の一つです。昨年5月に日本電産テクノモータ株式会社福井技術開発センターの第2期棟が完成し、新たに700人以上の雇用が創出される予定となっています。竜前企業団地についても売却の協議を進めています。さらに、新たな企業団地の造成も計画しています。今後も、大規模な企業誘致から個人の創業まできめ細かい支援策を講じて、魅力ある雇用の場の確保を図っていきます。



聞き手／坂口みゆきアナウンサー
（チャンネルO・12月22日）

観光まちづくりは、1次産業から3次産業における各産業振興施策、人づくりに取り組む教育施策、インフラ等まちの基盤整備など、あらゆる政策に関連するまちづくりの総合政策です。

観光関係団体はもとより、市民や団体、事業者なども巻き込みながら、体験観光プランの企画や賑わい創出イベントなどに取り組みたいと考えています。農林水産業については、市が整備を支援した県内有数の大規模園芸ハウスが本格稼働を開始し、嶺南初のメガファーム「若狭の恵」が設立されるなど、新たな展開がありました。先進的な農業の担い手が地域に新たな風を吹き込むことを期待しています。

賑わいの創出について

市長 「まちの駅」、「小浜西組重要伝統的建造物群保存地区」の整備に着手しています。「まちの駅」の主要施設となる「旭座」は、「歴史と文化のまち小浜」のシンボルとして、市民・観光客が集い伝統文化に触れるとともに、市民が気軽に利活用できる交流ホールとして整備を進めています。町並み整備が進む小浜西組と、県の伝統的民家群保存活用推進地区に指定されている遠敷の町並みの二つは、文化庁の日本遺産に登録された「御食国若狭と鯖街道」の構成ストーリーの中でも必要な文化財となっており、全国に発信する一つの要素として積極的に活用していきます。



北陸新幹線若狭ルート建設促進総決起大会を開催（12月13日・遠敷）

福井国体まであと2年となりましたが、会期と競技が正式決定し、競技会場の改修工事も進んでいます。平成29年のプレ大会、30年の本国体の市民協働による成功を目指して、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

北陸新幹線の敦賀以西ルートにつきましては、色んな案が議論されていますが、昭和48年に整備計画で決定された小浜ルートが唯一の正式ルートです。与党検討委員会では、沿線自治体やJRへの意見聴取を今年3月までに終え、5月中にルートを絞り込むとしています。今が小浜ルート実現に向けて行動する正念場であり、嶺南6市町が一体となって早期実現を国、県に強く働きかけていきます。

効率重視の行財政改革について
市長 26年度普通会計の決算では、1年間の経営状況を示す実質単年度収支が、1億2千万円の黒字となりました。借金である地方債残高は154億円となり、この7年間で15億円減少させてきました。しかし、平成28年度からは、施設整備などで多くの財源が必要になります。財政の状況を見極めながら、引き続き健全な財政運営に取り組んでいきます。

今年の抱負は

市長 少子高齢化の進行や人口減少問題など、より一層激しさを増していますが、安定した雇用の創出や日本遺産ブランドを活用したまちづくりに取り組むことで、交流人口を増やすとともに、地域の活性化につなげていきたいと考えています。北陸新幹線小浜ルートの実現は、あと一歩のところまできており、ここ1、2年が勝負です。地域の熱意で小浜ルート決定を勝ち取り、市民の皆さんが笑顔で生活できるまち、笑顔で夢に向かってがんばっていただけのまちを作り上げていきます。



安定した雇用の創出や日本遺産ブランドの活用